

音楽のおくりもの Information

Spire_M

中学・高校版
通巻第19号

ラテン音楽よもやま話

ラテン・パーカッション奏者 ウィリー・ナガサキ

学習指導案

のらしさ

日本人であることに気づかせてくれる和楽器への取り組み
～やさしい音楽で気づきのチャンスをつかむ～

仙台市立南中山中学校 大内 泉

楽しく学ぶ日本の音の世界

新潟大学教育学部 伊野 義博

篠笛を教える教育現場の先生方へ

邦楽囃子笛方 福原 徹



教育出版

ラテン音楽

ウィリー・ナガサキ (ラテン・パーカッション奏者)

よもやま話

“ラテン”と聞いて、皆さんは何を連想されるでしょうか。「ラテン楽器」や「ラテン音楽」「ラテン諸国」など、“ラテン”にかかわる言葉はいくつもあり、さらに「ラテン音楽」ひとつを取り上げても「マンボ」「チャチャチャ」「ルンバ」など、そのバリエーションは多彩です。今回は日本を代表するラテン・パーカッション奏者で、小学校版「音楽のおくりもの」3年生教師用指導書鑑賞CDの音源「まほうのチャチャチャ」をプロデュース・演奏いただいたウィリー・ナガサキさんに“ラテン”に関する素朴な疑問や、ラテン音楽の歴史に関すること、ラテン楽器のことなどを、専門であるキューバ音楽を中心に語っていただきました。(聞き手：音楽編集部)

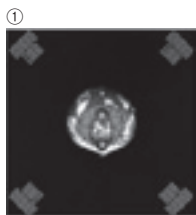


編集部

今日はラテン音楽についての素朴な疑問についていろいろ教えていただきたいと思います。まず、ウィリーさんご自身の、音楽の経歴をお聞かせいただけますか。

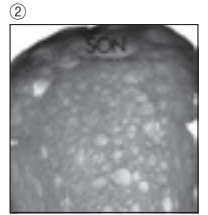
ウィリー

私は小学生の頃からロックミュージックを聴き始めました。中学生の時、ロック、ジャズ、そして本格的なラテンリズムを融合させ、独自のスタイルを確立させた『サンタナ』^①の1973年初来日公演に衝撃を受けましたね。特にコンガ、ボンゴ奏者「アルマンド・ペラッツァ」ティンバレス奏者「ホセ・アレアス」の素晴らしいグルーブに魅了されました。本格的なキューバンアンサンブルを初めて目のあたりにしたのは、それらが最初です！彼らが信望・敬愛するNY(ニューヨーク)ラテンのキング「ティト・プエンテ」の存在を、当時のレコード解説で知り、ラテン音楽に傾倒していきました。サンタナが世界的スターになるきっかけとなったナンバー「オジェ・コモ・パ」は、プエンテの作曲で



①
「ロータスの伝説」
サンタナ/MHCP-1002～4

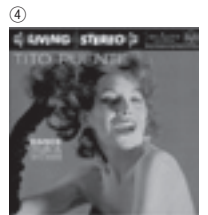
す。以後トラップドラムを叩き始め、独学で研究しました。なにせ当時は、彼らが使用していたアメリカのLP社のラテン・パーカッションは容易に入手できませんでしたからね。しかし、幸運な事に、1979年に先述したラテン・パーカッションが、当時ヤマハ楽器さんが代理店となり、おかげでティンバレスとコンガをゲットできました。なんと、それらのプロモーション公演とクリニックが同年行われ、そこでプエンテ、パタート（カルロス・バルデス…キューバ出身、コンガの開祖的存在）両大先生に手ほどきを受けたわけです。その時の感動は今尚忘れえぬ思い出です。その後、私を音楽界へ導いていただいた松岡直也氏は2公演参加され、更に彼らを迎え「SON」^②という傑作のアルバムを制作されました。とにかく、先述させていただいた方々との出会いは、ただただ感謝あるのみです。



「Son」
松岡直也&Wesing/ANT-7



「LONG FOR THE EAST」
松岡直也/ANT-12



「ダンス・マニア」
ティト・プエンテ楽団/
BVCP-40036

編集部

私は、松岡直也グループのアルバム「ロング・フォー・ジ・イースト」^③のアルバムと、同時期のライブ演奏でウィリーさんの演奏を初めて聴きました。白のスーツを着こなし、とてもきれいなティンバレスの音が印象に残っています。さて、ウィリーさんはこれまでに多くのミュージシャンと共演されてきたと思いますが、特に記憶に残っている共演アーティストについてお聞かせ下さい。

ウィリー

やはり、ティト・プエンテ^④、ジェリー・ゴンザレスですね！それと1988年松岡直也プロデュースによるファニア・オール・スターズ（サルサを世界に広めたNYラテンの連合体）との共演も感動的でしたね。あと、青江美奈さんが1994年にフレディ・コール（ナット・キング・コールの弟）を呼んでスペシャルライブを4回にわたって行いましたが、そのサポートとして参加しました。青江さんはもともとラテンがお好きな方でしたが…いまではいい思い出です。また、年長のラテンファンはご存知かと思いますが、ザビアクガート楽団との共演も思い出に残っています。

日本の歌謡曲とラテン音楽

編集部

日本では昔からラテン音楽が聴かれており、日本の歌謡曲には昔からラテン音楽の影響を受けたアレンジが多いように思います。これには理由があるのでしょうか？

ウィリー

古賀政男先生が音楽親善使節として諸国を歴訪された際、ラテン音楽から受けた影響もあったと思います。また、浜口庫之助先生もラテンバンドを率いて活動されていました。この先生方を通じて日本の歌謡界にラテン音楽の味わいが注がれたのではないのでしょうか。

ただし、スペインの舞踏からくる8分の6拍子系の影響もあったと思います。キューバはスペインの植民地だった経緯もありますから。さらに付け加えると「クラベ」には2種類あり、それぞれ「ソンクラベ」と「ルンバクラベ」と呼びます。

【譜例3】

ソンクラベ 

ルンバクラベ 

「クラベ」は高い音のパルスでアンサンブルの核になるリズムです。「クラベ」の前半を反復させるリズムを「トゥンバオ」と呼びます。この言葉は大切なキーワードで、コンガやベースなど、中低音域を反復させるリズムの総称です。また、コンガドラムの基本パターンも「トゥンバオ」と言います。これらの語源はコンガの一番低い楽器の呼び名「トゥンバドーラ」が由来です。奥深いクラベのリズム、まさにそれはアフリカ、ヨーロッパ両文化が結実したキューバ音楽の象徴です。

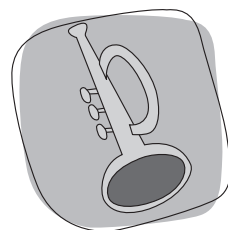
ラテン諸国とその他の国のかかわり（人と音楽の流れ）

編集部

ラテン諸国にはいろいろな音楽があふれていますが、例えば「マンボ」がどこの国の音楽であるのかよくわかりません。ラテン音楽と国々、人々のかかわりについて教えてください。

ウィリー

ラテン音楽のリズムを大きく分けるとすると、キューバを中心とする「アフロキューバン」、その周辺でキューバ以外の「アフロカリビアン」、「アフロブラジリアン」の大きく3つに分けることができます。ただ、私の中では「ラテン」というとキューバ音楽を指しています。「アフロキューバン」では「マンボ」「チャチャ」「ルンバ」など、「アフロブラジリアン」では「サンバ」「ボサノバ」など、「アフロカリビアン」では「ボンバ」「プレーナ」（プエルトリコ）、「メレンゲ」（ドミニカ共和国）、「レゲエ」（ジャマイカ）などです。素晴らしい多種多様な音楽がありますが、先ほど説明した「トゥンバオ」のリズムがどの音楽の根底にも流れています。やはりアフリカがルーツである証拠ですね。キューバは昔、植民地としてスペインが領有し、アフリカ系の人々を奴隷として連れてきた経緯がありますが、そこでスペインの西洋音楽とアフリカのリズムが融合してできたのがキューバ音楽です。また、ブラジルの場合はポルトガルが領有していたため、音楽的には大きな違いがあります。





編集部

このように国や人々のかかわりを、音楽を介して説明していただくとわかりやすいし興味深いですね。さて、ここから先は少しマニアックな話に突入すると思いますが、ウィリーさんのご専門でもあるキューバ音楽について、もう少し詳しく教えてください。

ウィリー

それではキューバ音楽のリズム&フォーム（形態）を中心に述べさせていただきます。「ダンソン」「ソン」「ソン・モントゥーノ」「ルンバ」「マンボ」「チャチャチャ」「コンガ」「モサンビーケ」「ソング」などが創造されました。ラテン音楽の宝庫キューバ！と言われるだけあって、それぞれ強力なリズムに支えられた躍動感溢れる魅力的な形態です。

『ソン』…キューバ東部の都市、サンチャゴ・デ・クーバを中心に 19 世紀末に成立、以後 20 世紀初頭（1920 年代）首都ハバナで「セクステート・アバネーロ」「セクステート・ナシオナル」らの楽団が活躍しポピュラーとなりました。トレス（3 コースの復弦小型ギター）ギター、ベース、クラベス & マラカス（ボーカル兼任）そしてボンゴという編成。S. ナシオナルは後にトランペットを導入し、セプテット（7 人編成）となりました。

『ソン・モントゥーノ』…ハバナ近郊マタンサス出身盲目のトレス奏者アルセニオ・ロドリゲスが開発した形態。ソンのアンサンブルにトランペット、ピアノそしてコンガドラムを導入し、更にそれらを強力にしたアンサンブルを



ボンゴ



コンガ

確立させました。ここにボンゴとコンガによるコンビネーションが初めて誕生しました。ボーカル&コーラスの掛け合いによる楽曲後半の反復するセクション「モントゥーノ」をより強化して、ボンゴ奏者が持ちかえて叩き出す強烈なカウベルのビートがそれらをスウィングさせました。今お話をさせていただいた『ソン』『ソン・モントゥーノ』は、今に至るサルサの源流です。



次の世代へ伝える

編集部

ウィリーさんはパーカッションスクールで後進の指導にもあたられています。音楽を教える上で大切にされていることは何でしょうか。

ウィリー

ティト・プエンテ先生、カルロス“パタート”バルデス先生が来日され、私がレッスンを受けたときは、音楽の「イロハ」のところ、根幹にかかわることを教わりました。例えばティンバレスのベーシックなパターンとベースが作り出す、反復するビートは音楽の柱になる…など。先生方は私に、音楽の最も大切なところを伝えようとしていたのだと思います。次の世代へ音楽を伝えていくときは、重要なことをシンプルかつ明確に伝えることが大切だと私は考えています。



ティンバレス

PROFILE ●ウィリー・ナガサキ

79年にティト・プエンテ（NYラテンのキング、グラミー受賞4回）のクリニックに参加したのをきっかけにラテン・パーカッションを志す。

1982年には松岡直也（中森明菜「ミ・アモーレ」でレコード大賞受賞）のウィッシングに引き抜かれ、プロとしての本格的活動を開始。モントルー・ジャズ・フェスティバル、ニース・ジャズ・フェスティバルを始め、国際的に活躍する。

1984年にはNYへ渡り、アンディ&ジェリー・ゴンザレス（95年グラミー賞ノミネート）、マニー・オケンド&リブレといったヘヴィ級ニューヨーク・ラテンの重鎮たちと共演。帰国後は松岡グループを中心に、屈指のセッション・ミュージシャンとして数多くのツアー／アルバム制作に活躍、日本のパーカッション・シーンの中で独自の存在を築き上げてきたが、近年自身のグループ、サポール・バランテを結成。ヘヴィかつエンタテインメント性にも富んだラテン・ジャズ・アンサンブルを繰り広げている。

96年、ブロンクス・パーカッション・スクールを開校し、老若男女を問わず指導している。2004年に中村とうよう氏プロデュースによるアルバム「海上の道」（残りはあとわずか）をリリース。

ホームページは <http://bronx.cup.com/index.html>



CAMINO SOBRE EL MAR(海上の道)
XSCL 10002

日本人であることに気づかせてくれる 和楽器への取り組み ～やさしい音楽で気づきのチャンスをつかむ～

仙台市立南中山中学校教諭 大内 泉

音楽の授業時数が少なくなってから久しい。この少ない時数で何をどのように子どもたちに提供すべきかが、現場における私たち教師の最重要課題とも言える。しかし、教師がやみくもに詰め込んだりせず、のんびりゆっくり取り組んでいても、子どもたちは子どもらしさを発揮して夢中になるものである。そこには、子どもたちの気づいたり見つけたりするかけがえのない喜びがあるからであり、そのような気づきの場を設定することこそが子どもたちのための授業と言えるのではないか。（少なくとも教師のための授業ではない）

音楽科学習指導案

2009年9月17日（木）6校時

活動場所 1階 音楽室

指導学級 2年1組 33名

指導教諭 大内 泉

1 ● 題材名「篠笛で謡って楽しもう」

2 ● 題材の目標

- (1) 篠笛のやわらかく美しい音色を感じ取る
- (2) 古謡やわらべうた、民謡に親しむ

3 ● 指導にあたって

(1) 題材観

新学習指導要領では「我が国の音楽の指導の充実」が示されており、現場では生徒の学習に適する優れた教材としての日本の音楽や楽器及び指導の開発が急がれる。各学年の内容の取扱いとして特に指導上の配慮事項には、①和楽器の指導について「3年間を通じて1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるように工夫すること。」②「我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導については、言葉と音楽の関係、姿勢や身体の使い方についても配慮すること。」と示されている。

また、和楽器に限らずどんな楽器でもそうだが、基礎の重要性については音楽の授業を通して再三説くべきであり、全員に持たせられる篠笛の実習を通して経験させることがより効果的であり、目標に限りなく到達できると考えこの題材を設定した。

(2) 生徒観

男女共に明るく活発な学級である。歌を歌わない生徒は一人もいないが、いわゆるハーモニーを自分で作ってみた生徒は、非常に少ないということがある。教師に、「3つのドミソという音はよく合うよ」と言われて、それが実際にボーッと鳴り、それを聴いてきれいだなと思うのも一つの具体的な経験ではあるが、受け身の音楽は音楽ではないので、自分からやってみるものが音楽であるということを生徒とともに大事（おおごと）にしている。

授業の導入によく行っている手拍子リレー（リズムゲーム）なども、リズムの経験が一段と深まる。音楽が好きも嫌いも上手も下手も一緒にクラス授業における音楽活動の動機づけに、一斉授業では特に効果が期待できると考え、よく行っている。

(3) 指導観

時間数の少ない中学校音楽科がやるべき最低限必要なこととして、「音楽活動がどうあるべきかを体験させること」とおさえ、①「耳を育てること」②「やさしい音楽を美しく演奏すること」③「文学や自然とのかかわりを大切にすること」④「我が国や世界の伝統的な音楽から学ぶこと」以上の4点を音楽活動の基礎的能力ととらえた。①については積極的に〈聴く〉行動が大切になる。耳をすましてものの中身を知ることは、ものの質を考える大切な姿勢であり、江戸時代の国学者荻生徂来は「聞は耳、声を受くる也。聴は耳、声を持つなり」と、「聞こえる」と「聞こうと思って聞く」の違いを明示している。授業では①手拍子ゲーム②自然音③余韻の変化（和楽器）などを重視している。

本題材では、生徒への個別的な声かけをできるだけ多くし、協力し合って技能を身につけようとする態度を育てていきたい。

4 ●教材について

楽器の表現活動の基本的な取り組みは「毎日少しずつ」に尽きる。「笛と遊んでいる」うちに、プレスコントロールやアンブシュアのコツが自然に身についてくると考えられるからである。

■主教材

■わらべうた 18 曲、童謡 2 曲

いしやきいも、たこたこあがれ、ゆうやけこやけ、うしろのしょうめん、ずいずいずっころばし、もういいかい、おにさんこちら、いもむしごろごろ、あがりめさがりめ、一番星見つけた、雨々降々とくれ、大寒小寒、かごめかごめ、はたるこい、夕焼け小焼け、竹田の子守歌、赤とんぼ、七つの子、ほか

□「越天楽今様」……………日本古謡……………2年生篠笛課題曲

□子守唄 他 鑑賞 CD（笛：寶^{たから}山^{さんざん}左衛門^{えもん}）

5 ●計画題材の評価規準と学習活動における評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受	ウ 表現の技能
題材の評価規準	我が国の伝統音楽の特徴（らしさ）に関心をもち、意欲的に聴こうとしている。	我が国の伝統音楽が、それを生み出した社会や文化・歴史と密接に結びついていることを感じ取っている。	楽器の基本的な操作方法や初歩的な演奏方法に気をつけて演奏表現をする技能を身につけている。 《基礎の重要性》
学習活動における評価規準	◎日本の音楽に興味をもち熱心に耳を傾け聴こうとしている。 【前時と本時】	○わらべうたや民謡が生まれた背景を理解しようとしている。 【本時】	●篠笛の基本的な奏法に気をつけて演奏しようとしている。 【前時】 基礎の重要性 繰り返し評価 ○篠笛の基本的な奏法を再確認して演奏しようとしている。 【本時】

6 ● 本時の学習活動 2/2

(1) 本時の指導目標

篠笛の音色のよさを感じながら、日本古謡やわらべうた、民謡に親しもうとする態度を育てる。

(2) 本時の指導にあたって

音楽の知識や技術の習得のみならず、音楽の楽しみ方、芸術を追究する方法などは、体験（自分からやってみる）を通してのみ身につくものと思われる。そのためにも演奏中は楽しく、一人一人の個性的な演奏には互いに共感し、真剣に聞き入るという音楽のあるべきコミュニケーションを大切にしたい。

(3) 本時の学習指導過程

	学習活動	指導の手だて	評価の規準 【方法】	○ A 判断の視点 ● C 状況生徒への 手だて
導入	1. 手拍子回しをし、 本時の学習目標を確認。	1. 本時の目標に沿った手拍子回しをする。		
展開	1 年次の篠笛の学習で身につけた基礎的な演奏技術を再確認し、やさしいメロディーを「謡う」ように吹くことで音色のよさを味わってみよう。 2. いしやきいもを歌唱して味わう。 3. わらべうたをどんどん吹いてみる。 4. 「お気に入り」を班ごとに篠笛で練習する。 5. みんなの前で一人ずつ演奏する。 6. 5 を歌唱練習しながら味わう。 7. 本時のまとめとして数曲篠笛演奏し、味わう。 8. 寶山左衛門の篠笛を鑑賞する。	2. 曲の成り立ちについて考えさせ、音を自由にのぼしておいしそうに吹かせる。 ■ 唱譜でも味わわせる。 3. 班ごとに「お気に入り」を見つけ吹けるようになるまで繰り返し練習させる。 ■ 机間巡視で声がけする。 4. 篠笛の指うちを確認し、篠笛の「らしさ」を再確認させる。 ■ 唱譜でも味わわせる。 5. 講師の範唱、あるいはそれに替わる演奏を聴かせる。 6. 「謡う」ように吹くためのワンポイント（響かせるコツ）を確認する。 ■ 歌わせる。 7. 楽しく演奏し、真剣に聞き入る姿勢を大切にする。	(ア) 日本の音楽への興味をもち、主体的に聴こうとしている。【観察】 (イ) わらべうたが生まれた背景を理解することができる。【ノート】 (ウ) 基本的な奏法に気をつけて演奏することができる。【演奏】	○ A 判断の視点 ● C 状況生徒への手だて ● 簡単な奏法を教えみんなと同じように楽しめるようにする。 ○ 篠笛の演奏技能習得に努力し、確実に身につけている。 ● 机間巡視し、個別指導をしたりグループ学習で教え合いをするように指示する。 ○ より高度な演奏表現に意欲的に取り組んでいる。 ● 個別指導で確実に身につけなければならない奏法を練習させる。
まとめ				

演奏は、今を生きている命の証でもあるととらえ、発表本番に限らず、練習においても風のような流れを絶えず意識させている。

正直なところ、本校で篠笛を授業に導入して5年めになるものの、3年めの頃は次につながる指導の見通しが立たず半ば諦めかけたが、生徒の方からやりたいと声が上がるとなり、息を吹き返した。教師が変わると生徒が変わるということなのかもしれない。日本音楽は昔から伝承音楽として、口伝によるマンツーマンのスタイルで行われてきた。やはり、よいお手本が身近にあってそれを模倣していくことも大事であると感じている。

本校は自然環境に恵まれ、音楽室前の大きな調整池には様々な種類の野鳥が飛来している。まさに自然音（風の音、木々の音、鳥の鳴き声）に耳を傾け「篠笛」を学習していける環境にある。そこからヒントを得て、今回の授業では導入部に自然音のCDを聴かせ雰囲気づくりを試みた。同じく導入部の手拍子ゲームでは集中する雰囲気と意欲の喚起を図った。教材としての「わらべうた」は同じ指づかいで、多くの曲を履修でき、反復練習が可能となる。篠笛のもつ特徴「指うち」については、列ごとの単位で発表させたが、実態の把握、集中力の喚起に有効であった。今回は2年生の授業であったが、3年生になると、その生徒の持ち味が、素朴な音、深い音となって表れてくる。やはり「篠笛」は一人ずつ1本担当することによる、練習量の確保が大きなメリットである。今後もリコーダーの履修方式を思い出しながら、新たな授業実践に取り組んでいきたい。



楽しく
学ぶ

日本の 音の世界

新潟大学教育学部 伊野義博

1

日本の音に目を向ける

例えば、携帯のストラップに付けられている鈴…。お隣の先生と一緒に振ってみてください。とても日本的な響きがしますね。縁日で買った鳩笛…。紙の巻笛…。私たちの周りには日本の音で溢れています。あたりまえのことですね、日本に住んでいるわけですから…。ただ気がつかないだけなのです。

和楽器というと、箏、三味線、尺八のような日本の伝統的な楽器だけをイメージしてしまいがちです。しかし、ここではもっと広くとらえ、こきりこや当たり鉦など、民俗芸能の音楽に用いられている楽器はもちろん、歌舞伎などで使われる擬音笛やでんでん太鼓など、日本を感じさせる音具や玩具まで範囲を広げて考えます。

自然や生活、あるいは四季折々の催しにおける音の世界から伝統的な芸術音楽に用いられる楽器までを同一線上に置き、日本的な音の感覚や音楽の傾向をとらえようとする発想です。こうすることにより、日本の音の世界に気づき、そこに子どもが自然に入り込むことのできる多様な実践も可能になると考えます。ここでは、特に小学校や中学校で日本の音の世界に浸り、楽しみながら学習するといった観点から、導入的なプランを紹介します。

2

基本的な取り組みや考え方

▶日本の音に気づき、その世界を楽しもう

毎日の生活で溢れている音に注目すると、雑多な文化が入り交じっていることに気がつきます。この中から、「日本」を感じさせる音を取り出して、その世界を楽しみましょう。家庭にある玩具やテレビの音世界、あるいは、自然や祭りの音などがヒントになるでしょう。まずは、音の出るものすべてに注目してみましょう。

▶音の多様性を味わおう

日本の音や楽器は、どれも個性的で独特な音色を主張してきます。そうした音の個性に注目しましょう。個々の音の違いを楽しむのはもちろんですが、例えば、木、革、竹、糸、金属などの素材に分類したり、「はじく、こする、すくう」など奏法の違いに注目したりして、多様な音の世界を感じ取ります。雅楽や歌舞伎の黒御簾音楽、祭り囃子など、日本の合奏は、こうした個性的な音色の集まりです。

▶ 日本的な音の感覚を引き出そう

例えば、「セーノ」「ドッコイショ」などといった表現には、表拍（セー）裏拍（ノ）といった拍感が伴います。また、「イヨーッ ポン」で手を叩くときには、日本的な間（ま）を感じ取ることができます。私たちは既に、こうした日本の音楽のもととなる感覚の中で生きています。日本的な拍感、余韻や静寂、間、互いに見はからって合わせるといったような、身体の内にある感覚を引き出すことです。

▶ 日本語とのつながりを生かそう

その際、日本語の特性に注目し、それに伴う身体的な感覚とともに、楽器や音楽とのつながりを生かすといった視点をもつようにします。仮に子どもが目の前のものを「ヒトーツ、フターツ」と指をさして数えたとき、その指先には日本的な拍や間が生まれているのです。また、虫の声を「チンチロリン」「リンリンリン」と表現するように、豊富なオノマトペをもつ日本語の響きと感性は、楽器を奏する際の「ドンドコドン」「テントンシャン」などの唱歌（しょうが）に直接的に結びついているのです。

▶ 音楽の仕組みを使って音楽づくり

日本の音の世界に浸りながら、音楽づくりを楽しみましょう。冒頭の携帯ストラップの鈴でまずは「反復」してお気に入りのリズムを作る、それを友達と「問いと答え」で鳴らしてみる、するとたちまち素敵な音楽になりますね。他の音も入れて「変化」をさせたり「音楽の縦と横の関係」を工夫したりするとクラス全体に和の響きの世界が生まれてきます。ただし、指揮者は必要ありませんね。よく音を聞き合って、互いの息づかいや呼吸、間合いを見はからって合わせてください。

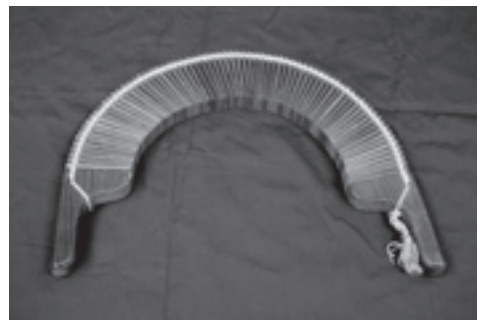
3

実践プラン

それでは、いくつかの実践プランを紹介します。ここで紹介するのはあくまでも発想例ですので、これを参考にさまざまに工夫していただきたいと思います。

◎ 日本の音を集めて鳴らして：玩具、音具、民俗音楽の楽器の音色と音楽づくり

- ・ でんでん太鼓、陶器や磁器の笛（鳩笛、ウグイス笛など）、玩具のセミ、ブリキの金魚、カタカタ、ポッペン、土鈴、風鈴、こきりこの竹、紙風船、お手玉、貝の笛、木魚、携帯ストラップの鈴、びんざさら、すりざさら、鳴子、擬音の笛など、私たちの周りにある玩具や音具、民俗音楽の楽器などは、手軽に楽しむことのできる日本の音の世界です。まずは、わずかな種類でもいいですから集めてみましょう。おもちゃですから、子どもたちの家にもたくさんあることでしょう。
- ・ 集まった音を鳴らして楽しめます。
- ・ 一人が一つの音を担当し、前の人の音



びんざさら

が終わったら自分の音を出すという約束で、順番に鳴らし、音を回します。笑わないことが大切。なにか規則性を伴った音の世界が誕生してきますね。

- ・木、竹、土、ガラス、紙などのように材質別にグループ分けして音を出したり、「反復」「問いと答え」などの音楽の仕組みを使って音楽づくりをしたりします。
- ・次の文献と挿入CDがとても参考になります。

茂手木潔子著『おもちゃが奏でる日本の音—CD付き』音楽之友社、1998年

◎音が無くなるとき：余韻、静寂、無音を聴く

- ・仏教の金属楽器である鑿子（けいす）や鑿（きん）あるいは鈴（れい）など、金属でできた、音を長く引く余韻のある日本の楽器を用意します。
- ・「音が無くなったところで手を挙げましょう。」と指示し、子どもに目をつむらせ、おもむろに一音響かせます。静かに、おしゃべりせずに全身を耳にして聴くことが大切です。
- ・今度は、目を開けたまま同じように聴かせます。（目は、半開きぐらいがいいと思います。）
- ・最後は、手を挙げることなく、一音に集中して聴きましょう。「あなたの耳は、最初は何を、そして最後は何が聞こえましたか？」と問いかけてみましょう。
- ・聞こえてくる音そのものに集中していたのに、その余韻を聴いているうちに、いつの間にか自分自身が周囲の音の世界に溶け込んでいくような気がします。そうした聴き方を楽しみましょう。例えば、寺の鐘、鹿威し、箏の一音など…、共通した聴き方です。
- ・良寛の耳になることです。

夜もすがら 我が門に鳴く きりぎりす
寝るとかはむ 声の絶ゆるは（良寛）



鑿子

◎拍子木一つで：「間」を感じ取る

- ・拍子木を一組用意します。手に入らないときは、よく乾き叩くと響く木片でよいでしょう。
- ・「チョン」と子どもの前で打ってみましょう。晴れ渡ったような^き柝の響きが教室に澄み渡ります。
- ・これで出席をとります。「これから名前を呼びます。先生に呼ばれたらお返事をしましょう。」といって、次のようにして柝を入れます。
- ・「〇〇さん」，「ハイ」，＜チョン＞，「〇〇さん」，「ハイ」，＜チョン＞，～。
- ・先生は、呼びかけと応答の絶妙なタイミングをはかって「ちょうどよい間（ま）で」柝を入れて下さい。失敗したら「間が悪い」ですね。
- ・子どもが「間」を感じ取ってきたら、「自分の好物を入れて自己紹介」をします。

- ・「〇〇，ラーメン大好き」，〈チョン〉，「〇〇，カレーライスにハンバーガー」，〈チョン〉，～。
- ・慣れてきたら柝を子どもに任せましょう。ときどき「間が悪くなる」のを楽しみながら，自然に日本の「間」を体得していくことができます。
- ・大相撲の力士紹介の場面を参考にしてみてください。
- ・高見盛，〈チョン〉，青森県出身，東関部屋，〈チョン〉，北勝力，〈チョン〉，栃木県出身，八角部屋〈チョン〉～。
- ・自分たちで，柝を入れた呼びかけをつくっても面白いですね。昔から次のようなものがあります。「火の用心，〈チョン〉，マッチ一本火事のもと，〈チョン〉」。

◎楽器とお話：唱歌を使って音楽づくり

- ・和太鼓（宮太鼓）を一台用意します。
- ・先生が唱える「ドンドンドン」「ドンドコドン」「ドンドンカカカ」などの唱歌（しょうが）を聴いて，叩いてみましょう。少しずつ複雑になっていくと面白いですね。
- ・今度は，先生が太鼓を叩きます。それを子どもに唱歌で唱えさせましょう。さあ，太鼓さんとお話です。太鼓さんは，何と言っているかな？
- ・これに慣れたら，子ども自身に唱歌を作らせます。子どもの作った唱歌を実際に太鼓で叩いてあげましょう。
- ・二人一組になります。「反復」や「問いと答え」といった音楽の仕組みを使って，唱歌で会話をしましょう。
- ・太鼓の両面を使って，グループ発表です。
- ・同様に，締め太鼓（テンツクテン），当たり鉦（チャンチキチン）などの楽器を使ってお話をしてみましょう。
- ・複数の楽器を組み合わせて会話すると，もっと面白くなります。

◎風息を楽しむうちに：篠笛の響きを求めて

- ・篠笛を用意します。唇を左右に少し引き，吹口から息を入れてみましょう。
- ・どんな音がしますか？ そう，息の音，風の音がしますね。耳を澄ませて吹き，その音を楽しみましょう。
- ・友達の出す音を聴きましょう。それぞれいろいろな音が聞こえますね。風のような音の人，もう笛の音となっている人，みんな篠笛の音です。
- ・吹口に近い指孔を塞いだり開けたりしてみましょう。かすかな風音の音高が変化するのを楽しみます。
- ・みんなでリレーをします。リコーダーと違って，いろいろな音質が生まれてきます。二人一組で「問いと答え」でやりとりしてもいいですね。
- ・少し慣れたら，他の指孔も塞いで，使う音の数を多くしていきます。
- ・すぐに音の出るリコーダーと違って，篠笛は「だんだんと求める響きになっていく」楽器です。その過程を楽しみましょう。音色の質を追求する，それが日本の

楽器の大切なところです。

- ・授業が終わったら、いつでも子どもが手を出して笛を吹くことができる状態にしておきましょう。いつのまにか、音の出る子が出てくるはずです。

◎「こきりこ」で楽しもう：拍の感じや自分の感覚とのずれ

- ・こきりこの竹を用意します。もし無ければ、よく乾いた細い竹を七寸五分（約23cm）に切って使います。

（打つだけなら、鉛筆や菜箸などでも学習は可能ですが、響きが違いますので、できるだけ竹を用意してほしいものです。）



こきりこ

- ・CDやDVDを聴いて「こきりこ節」を歌います。一番だけでいいです。
- ・CDやDVDとともに、こきりこの竹を打ちながら歌いましょう。拍の感じをつかむことが肝心です。西洋音楽の2拍子の「強弱」の感覚とは違いますね。
- ・DVDを見ながら、こきりこをどのようにして打っているのか、保存会の人打ち方をしっかりと見ましょう。次に、まねて打ってみます。なかなか難しいですが、パズルのような面白さがあります。クラスの何人かができるはずです。それを伝え合いましょう。最初からできなくてもかまいません。1週間たつと、できる子どもの数は飛躍的に多くなるはずです。
- ・こきりこには、太鼓（平太鼓）、鼓、鉦金（くわがね）、棒ざさら、篠笛などの楽器の伴奏がついています。打ち物の音とリズムを一つ一つ聴き取りましょう。
- ・太鼓（平太鼓）のリズムを両手で打ってみます。机の上でかまいません。微妙な間があります。このずれを楽しみながら、しかし、このずれがなくなるように打ちましょう。
- ・太鼓（平太鼓）を使って、打ってみましょう。平太鼓がなければ宮太鼓を縦に置く方法もあります。
- ・棒ざさらの音を聴き、口でまねて合わせてみましょう。「ズンズズー、ズンズズー」。これも微妙な拍のずれを聴き取り表現することが肝心です。
- ・楽器が用意できれば、映像を参考にして演奏してみましょう。
- ・このようにして、鼓や鉦金も打ってみましょう。楽器があれば一番いいのですが、鼓は、右手で左手のひらを打つ、鉦金は金属製の楽器でも代用できます。
- ・CDやDVDの入手については、越中五箇山筑子唄保存会指導のホームページが役に立ちます（<http://www1.tst.ne.jp/calm/>）。特にここで紹介されているDVD（『DVDで学ぶ・おぼえる富山県五箇山こきりこ』越中五箇山筑子唄保存会）は、モーションキャプチャーを駆使して作成しており、大変わかりやすく学習することができます。また、ホームページには、筆者作成の五線譜も掲載されています。ただし、楽譜はあくまでも教師の参考として扱ってください。

日本の 笛

日本の横笛には、篠笛、能管^{のうかん}、龍笛^{りゅうてき}、高麗笛^{こまぶえ}、神楽笛^{かぐらぶえ}などの種類があり、いずれも竹で出来ていますが、音色、外観は様々です。

日本の伝統音楽の世界では、音楽（芸能）のジャンルによって用いる笛が異なります。

例えば「能楽」では能管しか使いませんし、「雅楽」では篠笛や能管は使いません。そして各々のジャンルに属する笛の演奏家があり、そのジャンルで用いる笛を演奏しています。同じ楽器であっても、ジャンルにより演奏のレパートリーが異なります。

私の専門は「邦楽囃子」ですが、このジャンルでは篠笛と能管を用いるので、私はその二種類の笛を演奏したり教えたりしている、というわけです。

篠 笛

その多様な日本の笛の中で最もポピュラーな笛が篠笛でしょう。祭囃子など各地の民俗芸能、民謡、そして、長唄などの近世邦楽、三味線音楽、歌舞伎などで盛んに用いられています。

篠竹という竹に穴をあけただけという素朴な楽器で、管の内部を漆などで塗り、笛によっては籐などで巻いたものもありますが、構造としては非常にシンプルです。

篠笛には色々な長さ（調子）のものがあります。三味線の調子と同様に一^{ぼん}筈、二^{ほん}筈…と呼び、数字が大きくなると半音刻みで調子が高く（長さが短く）なります。

大人が吹く場合は手の大きさにより五〜七筈くらいが吹きやすいのですが、小さな子供の場合は九筈とか十筈でないと指が届かないでしょう。

近年では安価で取扱いも楽なプラスチック製の篠笛も出回っており、授業ではこちらを使う事が多いと思いますが、プラスチック製の篠笛は現在八筈とか七筈くらいしか出ていないので、小学校低学年や手の小さい子供の場合は注意が必要です。

地域により、笛を吹く人の中には自分で笛を作っている人もいますので、もし地元にそういう人があ



作曲家・中川俊郎氏と（撮影：長田 彰）

れば、ご相談なさる事をお勧めします。

竹で作られた手作りの笛にはプラスチック製には無い音色や手触りがあり、その不安定さも含めて笛本来の魅力があります。さらに、もし時間がつくれるようなら、指導してもらって自分たちで竹から篠笛を作るのも素晴らしいと思います。

吹き方

楽器の基本構造はフルートと同じですから、そういう楽器に慣れている人ならば、すぐ音が出ます。但しリッププレートが無いので、最初は口の当て方が難しいかも知れません。

持ち方の特徴としては、右手の4本の指を寝かせて（伸ばして）穴を押さえる、ということが挙げられます。他の楽器に慣れている人にはちょっと気持ち悪い？かも知れません。

フルートとの演奏上の違いとしては、笛では原則としてタンギングを用いないということが特徴と言えるでしょう。アクセントを付けたい時や音を区切りたい時には、指を打ちます。また、音を強くハッキリ出したいときは、声と同じようにお腹を使います。

ビブラートについてもときどき尋ねられますが、私自身はビブラートを付けているつもりは全くありません。（気障な言い方になりますが）ただ思いを込めて吹いているだけです。その結果としてビブラートがついているのでしょう。

私は師匠から「歌をうたうように吹け」と教わりましたが、本当にその通りだと思います。

選曲，編曲

私が弟子に教える場合は、最初はテキスト（拙著「やさしく学べる笛教本」等）を使って構えや音出し、指の動きに少し慣れてから、さくら、荒城の月などを数曲吹き、やがて長唄などの古典曲や、笛の独奏曲に入っていきます。

学校ではこのように時間をかけて段階的に進めていくのは難しいと思いますが、いずれにしても半音やオクターブ上の高音は難しいので、最初はそういう音あまり出ない曲を選ぶのがよいでしょう。

わらべうたや子守歌、その地域で世代を問わず皆が知っているような歌であれば、篠笛で吹く事もそんなに困難ではないと思われます。世代間の対話の機会にもなるのではないのでしょうか。

時間があれば、いろいろな譜面を用意して、実際に生徒と一緒に吹いてみて頂きたいと思います。いかにも和風という感じの曲が案外難しかったり、意外な曲が面白かったり、そういう発見もあるはずです。移調や運指についても、他の可能性がないかを検討されることをおすすめします。

笛で吹く場合の編曲は、あまりハーモニーを追求しないほうが得策です。音程が不安定になりやすいので、西洋的和声で美しいハーモニーを作るのは至難の業です。

ユニゾンで吹くか（音色や音程が色々なのでユニゾンでも充分面白い）、少しでも一人で吹くソロの部分を作ると良いと思います。

合奏の場合は、短いリズムフレーズや合いの手のような短いパターンを作って、それをくり返

し吹くパートを作ると、楽しい合奏が出来ます。

難しさと魅力

和楽器、特に笛にはアナログでファジーな魅力があります。音色は笛によって、また人によってまちまちですし、音程もなかなか安定せず、そもそも音を出すこと自体が体験的に要領を掴むしかなく、ましてきれいに伸ばすためには非常に微妙なコントロールを要求されます。

耳、指先、呼吸…さまざまな身体部分を総動員して覚えなければなりません。笛を鳴らそう、とか、音を出してやろう、などと思うと上手く行きません。吹く人の心理状態まで音に表れてしまうような楽器です。ですから、あせるとダメ、昨日上手く吹けても今日はダメ、というような事もしばしばです。

しかし、ちょうど声と同じように、どの人にも自分の音色があり、技術的レベルとは別に、その人なりに楽しめる楽器でもあります。

人間どうしの関係のように、様子を見ながら、少しずつ気長に付き合うというのが一番良いようです。もしかすると現代の子どもたちには貴重な体験になるのかもしれません。

フロンティア

笛は様々な邦楽や各地の伝統芸能などでも欠かせない楽器であり、また文学や美術にも度々登場します。しかし笛の独奏や笛を中心とした音楽はまだ少なく、ある意味ではフロンティアの分野でもあります。

したがって、笛を単独の楽器として教えるのは試行錯誤の連続であり、難しさが伴うわけですが、その工夫の仕方次第によっては、結果として新しい音楽領域を開拓する可能性もあると言えますでしょう。

笛の教え方のみならず、選曲、さらには笛の音楽の作曲・編曲についても、現場の先生方の活動の中から、私たち演奏家が学べるものがこれからたくさん出て来るのではないかと期待しております。

日本の笛の音楽がこれからどのように発展して行くのか、皆様と共にその一端に携わって行きたいと思います。



PROFILE ● 福原 徹

四世宗家寶山左衛門（人間国宝・六世福原百之助）に入門、東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。邦楽囃子笛方として古典を中心とした演奏活動の続けると共に、創作や演奏会の企画等にも取り組み、01年第1回リサイタル「徹の笛」により文化庁芸術祭大賞を受賞。東京藝術大学、有明教育芸術短期大学、清泉女子大学などの講師を歴任。著書「やさしく学べる笛教本」（汐文社）。CD「徹の笛」「lift off」（日本伝統文化振興財団）。



歌とピアノのための小品集

風と恋人

西澤 健治

ピアノ伴奏譜・CD付き

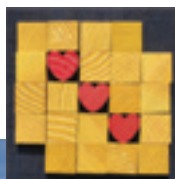
定価2,000円(本体1,905円+税)



作曲家、編曲家、ピアニストにしてフォトグラファーの著者が、自己のイメージを曲と写真の両面から表現した作品集。その作品の数々は斬新なアイディアと豊かな感性に満ちあふれている。

■掲載曲

朝の光がまぶしい時は／風によって／みんな友だち／生命が羽ばたくとき／ハロー・シャイニング ブルー／友達がいる／約束の言葉はどうして／いのち／あきのまほう／そよぐ風の中で／ふしぎ／魔法使いのマージさん／Singing with the Wind／さようならの向こう 全14曲



好評発売中！ 楽譜・CDは全国の楽器店・書店でお求めになれます。

☆ご注文のお問い合わせは… TEL 03-3238-6908/FAX 03-3238-6999

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

中学・高校音楽通信 **Spire_M**〔2010年 春号〕 2010年3月31日 発行

表紙写真：アフロ(ディジュリッド)

編集：教育出版株式会社編集局 発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光

印刷：大日本印刷株式会社

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

電話 03-3238-6862 (お問い合わせ)

E-mail web-service@kyoiku-shuppan.co.jp



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおい損保広島ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒810-0001 福岡市中央区天神 2-8-49 福岡富士ビル 8F TEL: 092-781-2861 FAX: 092-781-2863
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411